

12/19 五旗

許すな 安倍9条 改憲



安倍政権は安保法制＝戦争法を強行成立させ、昨年11月、南スーダンに自衛隊派遣を強行しました。しかし、戦闘状態で「住民を保護する」という任務がそもそもPKO（国連平和維持活動）ですらなかった。「危険だ」という現場からの「日報」を、政治が握りつぶしたことも発覚し、「違憲状態」と批判が広がって撤退に追い込まれました。不正な「解釈改憲」で集団的自衛権の行使も可能にし

上智大学国際教養学部教授

中野 晃一さん

憲法に安保法埋め込む

だが、安保法制の実効性はまだ脆弱です。安倍首相は明文改憲の衝動を強めたと思えます。

「トロイの木馬」

「自衛隊を憲法に明記する」という安倍改憲は、いわゆる「トロイの木馬」です。自

衛隊明記という形で、憲法の中に集団的自衛権を埋め込み、安保法制の既成事実化をより確実にするものです。

オバマの時でさえ自衛隊がアメリカに従属するのは大きな問題でしたが、現在のトランプ政権のもとで危険はいっ

サイル開発への軍事圧力の強化やエルサレムの（イスラエル）首都認定で、戦争勃発の可能性が高まっています。米政権の中で先制攻撃が公然と議論されるなど、トランプ氏

中で安倍首相は「われわれは100%米軍とともにある」と繰り返す。「トランプ追随」ぶりは異常です。憲法への自衛隊明記は、トランプ氏の戦争に日本がいつそう前のめりになることに他なりません。

自公支持者とも

市民と野党の共闘は希望の党による逆流を乗り越えませんでした。それは単に数の上で広が

るだけでなく、異なる意見や、政治の系譜の違いを乗り越え、お互いを尊重して広がってききました。皆が同じ色に染まるのではなく、安倍首相のやっていることはおかしいね、と共感してやっている。立憲主義を壊しておいて「次は改憲」というのは許せないという声を広げたい。

改憲では国民投票が問題になります。政党政治そのものではなく、政党や候補を選ぶものではない。多様性を持った安倍のつながりが、ストリートに力を発揮できます。自民党や公明党の支持者にもこの改憲はおかしいという人は存在します。そこを結んで発議そのものを阻止していく力として、安倍9条改憲反対の3000万署名運動は有効です。

聞き手 中相寅一
写真 日隈広志